
悪夢の後～救いの手～

菜花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪夢の後〜救いの手〜

【Nコード】

N4050D

【作者名】

菜花

【あらすじ】

悪夢でうされてたコナンは夜中に服部に電話をかけ……。服部とコナンの友情物語少しコナンの性格と異なっているかもしれません。正確には弱気になってるコナンです。

第一話　悪夢

その言葉はいきなりだった。

「なくなつたわ」

「え？　なんだって？」

「組織はなくなつたわ」

こんな早くに捕まるなんて夢にも思わなかったぜ！　少し、高鳴る鼓動を抑えながら俺は灰原に訊いた。

「じゃあ、解毒剤のデータは？」

「残念だけど……」

組織が、なくなつただけに嬉しいのによ！　灰原の口から最悪な言葉が出やがった。

「どういう事だよ！！　なあ！　なくなつたんだろ？」　アジトに行つて探せば手に入るんじゃないかねえのか！？」

いつの間にか俺は灰原に怒鳴っていた。いや、正確には怒鳴る以外頭に思いつかなかつたんだ。

「だから、組織がなくなる前に彼らが使つてたアジト、そう工場は爆発したの。跡形もなく消し飛んだそうよ。其処にあった解毒剤のデータもね。わかつたことは麻薬取引や密輸だけ……薬品のことは

なにもわからず闇に葬られたのよ」

んなバカな！！俺たちが今までやってたこと全部水の泡じゃねえか！！

「なあ、一つ教えてくれ」

「何？」

「もし、このままの姿でいなきゃいけないとして、俺たちは“生きて”いけるのか？」

こんなこと訊くなんて思ってもみなかったぜ。今まで元に戻るって信じていたからだな。

「さあね。私たちはこの世界の異物。いつかこの身体に何か起こるかもしれない。パイカルみたいな酒や食べ物で元に戻るかもしれない、下手したら突然死ぬかもしれない……それが一年後か十年後かはわからない。このまま何も起こらないかもしれない。それは今の私も貴方にも分からない事」

俺は灰原の言葉を聞き終えると力なく座り込んだ。

第一話「悪夢」(後書き)

明けましておめでとうございます

新連載で御座います。

評価感想よろしく願います。

第二話〜目覚め〜（前書き）

注意…コナンが弱気になっています。

第二話　目覚め

「わーーーーーー！！　はあはあ……はあ……元に……戻れない？」

俺は布団の上でビッシヨリと汗をかき、おっちゃんの部屋を抜け出し事務所へと向かった。

（戻れない？　近い未来……ハハまさかな。んなわけねえよな？）

何びびってんだよ俺！！　んなことありえねえだろ！！

「はい、服部やけど？誰や？」

「え？」

俺はいつの間にか服部の携帯に電話をかけてやがった。

「工藤か？　どうしたんや？　こんな時間に」

「あ、悪い。寝ぼけて間違えた。父さんとかにかけるつもりだったんだ」

「は？国際電話なら偉いちがうで？」

「だから悪いって！　んじゃあな」

何やってんだ俺、あいつに話してどうなるんだよ！！ あいつだけが“本当”の俺を素通りせずに見つけてくれた。ただそれだけじゃねえか。俺はあいつに何を求めてんだ？ 俺の悩みをあいつに話して心配させるようなら、今のままがいい……。

〔登校時間〕

「コナン君どうしたの？ フラフラしてるよ。大丈夫？」

「え？」

俺そんなにフラフラしてるように見えるか？

「ゲームのし過ぎですか？」

「夜な夜な、なんか食ってんじよねえのか？」

「それは無いですよ元太君！」

「いや。なんもねえよ」

「ならいいですけど」

「何かあったら言ってね！」

「そうだぞ！」

「貴方どうかしたの？」

「いや、だだの寝不足だよ」

ハハハーー最近夢見悪いんだよ。心配してくれるのは嬉しいけど、
わりいけどオメーらに言えねえ話なんだよ。

第二話〜目覚め〜（後書き）

読んでいただきありがとうございます！！

電話越しで平次でできました。（パチパチパチ）

そして……コナンの性格が違っって思われる方ホントにすみません

でもちゃんと元に戻ります。というより戻します。

なので見放さず読んでいただければ嬉しい限りです。

ではありがとうございました。

次回平次参上！！

第三話　服部とコナン

「ただいまーってなんでお前がいんだよ！！服部！」

「よお、久しぶりやなコナン君！」

「……」

よりによってなんでいんだよ。なにがしくて遙々大阪からくるんだよ！！バカじゃねえの！！

「蘭ねえちゃん」

「何？　コナン君！」

「ちょっと平次兄ちゃんと散歩行ってくるね」

「え？　あ、うん。夕食までに帰ってくるのよ！」

「うん。わかった。」

俺は服部を引っ張り探偵事務所を飛び出してた。

「おい！　まてや」

俺を止めようとする服部に手を降りられちまった。そりやそうだよな……今の俺じゃ力づくでコイツを引っ張ることできねえよ！！いつもならーどうだろうな。また俺何かしてるよ！！帰ってもらいたかったのに……なんでワザワザコイツまでつれてきんだよ！わけわかんねえよ！！

「なあ？ お前何かへんやぞ？」

流石名探偵だぜ。異変に気付くもんなんだな。俺は止まっていた足を急に走らせた。ここからどうしても逃げたかったんだ。コイツといたくなかったんだ！！

コイツを見てたら感情が流されそうだった。

「待てや！ 工藤！」

予想はしてたけど、追いかけて来やがった。公園に入った途端、俺の腕を掴んだ。振り払おうとしたけど、余計に腕に力を込めてきやがった。オマケに小雨程度の雨まで降ってやがる。

「逃げんなや！」

「逃げてるわけじゃねえよ」

俺は嘘つきだ……本当は逃げてる。逃げんなっていった俺が人に言える立場じゃねえな。ほんとが一番俺が逃げたかったんだ！！

「思いつきり逃げてるやん。何があつたんや！！」

「お前には関係ない事だろ！ 帰れよ！ 何しに来たんだよ！！」

あ……言っちゃったよ。言うつもりなかったのに、勢いってこえーな

「関係ないやろ？ お前と俺は親友やんけ！ ライバルやんけ！ 一人で抱え込むなや！ それに、お前昨日電話してきたやん。」
「あれは……あれはただー」

「あれはお前からの無意識のSOSやったんやろ!？」

何だよ！ 何でコイツには分かったよ。

「ほれ？ 話してみいや！」

ハハ……限界だな。

「……………夢」

「はあ？ 夢やと!？」

そりゃ驚くよな。たかが夢なんだから

「そう……夢をみたんだ。悪夢をな。最近ずっと見てた。組織が崩壊する夢解毒剤が手に入らなく一生コナンでいなきゃいけねえ夢をみたんだ。」

俺は一気に言っちゃった。未だに俺の腕を掴んだままの服部。何が言いたいんだよ！何で離してくれねえんだよ！

「悪夢は夢や！」

何だよそれ!!夢で終われば嬉しいよ。でも……正夢になってもおかしかねえ夢だろ!？何で俺コイツに話したんだよ。

「もういいよ!!!」

「待てや工藤！」

抜けてい手にた力が入ってきやがった……^{いてえ}痛よ……
何でとめるんだよ。

第三話〜服部とコナン〜（後書き）

読者様お疲れ様です

平次来ちゃいました東京に！

二人言い争い……ですね。

平次頑張って！

次回で一応終わりです。

おまけの一話も作ってみたのですが……イマイチなんです。投稿するかは考え中なのです。

あので“一応”をつけました
ありがとうございました

最終話　ありがとう

「までや工藤、まだ現実起きてへん話しやる。あのねえちゃんかて、毎日一生懸命研究してるんやから、工藤がしつかりしなあかんやろ！？ あのねえちゃん支えてあげられる工藤がそんな弱きになつとつたらあかんやろ！」

「わかつてる。其くらい。『守る、守る』言ってる俺が一番足ひっぱんだよ」

そうだよ！！俺が重荷何だつて一番わかつてる！！俺さえ、いなけりや蘭は悲しんだりしねえし、灰原だつてこんな運命辿つてねえよ！

「お前そんな事おもつとつたんか！？ え！？ お前おかしいぞ！

ちよお目覚まさんか！！！」

いつてえ！ なんだよ！いきなり殴りやがつて！俺は衝撃を受け地面に叩きつけられちまった。下は雨でぬかるんでやがる。その上に転がったんだ。俺は泥まみれになって上半身だけ起こした。一瞬何があつたかわからねえ状態で俺は頬に手を当ててみた。少し腫れいやがる。いや、結構がつくかもしれねえ、大人が子供を殴つたんならそれくらいの傷になよな。ハハ……情けねえ唇から血がながれてるぜ。なんか、頭スッキリしてきやがつた。なんなんだよあいつ、俺のカウンセラーか！？あのバカ何か言おうとしてやがる。俺は服部を見ることができねえまま下をむいちまった。

「工藤に一つ言うといたる。夢はまだ起こつてへん！未来はな、

夢で、きめるもんでも、人が決めるもんでもない、自分がゆつくり決めていくもんや!」

久々にお前が的もな事言つてやがる。でも、感謝してるぜ。なあ……服部? 時々は負けてもいいよな? 時々、はめ外してもいいよな? 俺にはちゃんとお前がいる! ありがとうな服部。いいライバルでいい友達に巡りあえたよ。絶対言葉にしねえけど、そう思ってるよ!

「立てるか? 悪なあ、思いつきり殴つてもたわ。お前が子供やとすっかり忘れてたわ」ああ……その笑いだよ。俺はお前の笑いによつて支えられてんだぜ!?

「平気だよ。こんなもん。まあ、かんつなり痛かつたけどよ!」

わざと悪餓鬼つぶくいつたら、コイツ何回も謝つてきやがる。スマン、スマンってそのまま、手を伸ばして来たから俺はその手を掴んでやった。

「あゝあ、ビヨシヨビシヨどころか、泥々やな」

「ほつとけ」

んだよ。泥々にしたのお前だろ!? 俺は細い目をして服部を見てやった。明日からはもっと明るくいかねえとな。あいつらも心配してたし。

「ありがとうな服部……」

小声で言つた言葉聞こえたのか、聞こえてねえのかわからねえけど

服部はニツと笑って探偵事務所に足を向けた。

もう、心は揺れたり挫けたりしねえと思う。アイツらをぶっ潰して幸せを得るまで突き進んでやる。全力で立ち向かってやるよ！

く完く

2008年1月14日

最終話〜ありがとう（後書き）

ありがとうございました。短い話でしたがありがとうございました。

平次がコナンをガツンつと一発！思いの入った拳をめいいっぱいふりおろしました。二人の絆ふかまったのかな（苦笑）

うまくコナの性格が戻っているなら幸いです……。おまけは辞めました。この作品の雰囲気丸潰れそうなので……

今日からコナンテレビアニメ13年目突入。エンディングがかわります！

応援よろしくお願いします

さて、今日は成人式

二十歳の皆様おめでとうございます！大人への道頑張ってください！今日はホントにありがとうございました

2008年1月14日

菜花

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4050d/>

悪夢の後～救いの手～

2010年10月10日02時26分発行